

鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース  
【実践コース】

## 令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「実践コース」 (基礎コース(2年間)を修了した者)

【目的】 病院勤務看護師が在宅生活志向を高める。

- 【目標】 1.病院看護師の在宅生活志向を強化し、退院支援の実践に活かすことができる。
- 2.患者とその家族が、在宅療養を送るために必要な地域の資源を提供することができる。
- 3.必要に応じて、多職種との連携を加味した退院支援を実践することができる。

## 令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「実践コース」 集合研修、HOCプラスノートによる個人課題及び各実習を行います

課題 ①	ねらい	受講生自身が目標を明確にする
	課題	HOCプラスノート <b>P.1</b> を記入

### ＜実践コース・IIコース・IIIコース合同＞

第 1 回 集 合 研 修	日 時	令和6年6月26日(水) 10時50分～12時20分
	会 場	鳥取大学医学部アレスコ棟1階 211 講義室
	ねらい	訪問看護師の役割を知ること、生活を中心とした看護の視点を明確にする。
	研修内容	○講 義 「訪問看護師の役割・機能・特性」
	講 師	◇ <sup>すずき たえ</sup> 鈴木 妙 : 鳥取県訪問看護支援センター 所長 (在宅ケア特定認定看護師)
	課 題	HOCプラスノート <b>P.2～3</b> を記入

### ＊訪問看護ステーション実習（5日間）＊

実 習	期 間	令和6年 7月～12月
	ねらい	家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。
	実 習 先	東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照
	課 題	◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照

### ＊地域包括支援センター実習（1日）＊

実 習	期 間	令和6年 7月～12月
	ねらい	病院看護師が、地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている 地域住民への働きかけを知る。 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。
	実 習 先	東・中・西部の指定した地域包括支援センター ※実習要項参照

※訪問診療同行実習（1日）※

実習	期 間	令和6年 7月～12月
	ね ら い	病院看護師が、在宅療養者の生活を支援する一つである訪問診療の実際を知る。
	実 習 先	中・西部の指定した在宅療養診療所 ※実習要項参照

※退院支援実習※

実習	期 間	令和6年 7月～12月
	ね ら い	退院前カンファレンスの参加、自宅訪問等を通じて患者の生活を理解し、より具体的な退院支援の視点を持つ。
	実習方法	<p>① 退院支援が必要な患者の中で、退院前カンファレンスの実施や退院後に自宅等へ訪問できる対象者を1事例選択する。（訪問対象者、訪問時期、訪問形式等はそれぞれの所属部署の管理者（看護師長など）と相談して決定してください。）</p> <p>② 退院前カンファレンスの参加、退院前・退院後家庭訪問などを含めた退院支援を行う。</p> <p>③ 自分が行った退院支援を振り返る。          ・退院支援どの程度の個別性が加味されていたか。          ・具体的な退院支援が行えていたか。          など</p>
	課 題	HOCプラスノート P.6～9 を記入

<第2回集合研修>

第14回T-HOC特別セミナー	日 時	令和6年9月28日（土） 10時00分～ 15時00分
	会 場	伯耆しあわせの郷 （倉吉市小田458）
	ね ら い	T-HOC受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。
	研修内容	パネルディスカッション、ワークショップ
	講 師	<p>パネリスト 門脇 智尋：訪問看護ステーション博愛          作埜 吉美：訪問看護ステーションほんわか          中原 裕子：訪問看護ステーションせいわ          報告 安住 朋代：鳥取県ナースセンター コーディネータ          提言 井上 和興：大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座</p>
	課 題	HOCプラスノート P.4～5 を記入

### <実践コース・Ⅲコース合同>

実習後の意見交換会	日 時	令和6年12月5日(木) 13時30分～ 15時30分
	会 場	鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室
	ね ら い	所属先や経験が異なる受講生がお互いの学びを共有することで理解を深め今後の看護実践に活かすことができる
	研修内容	<報 告>           ○実習を通しての学びと感想 <グループ討議>   ○実習での経験をどう看護実践に活かすか
	アドバイザー	◇坪倉 真由 : すまいる訪問看護ハピステーション所長
	課 題	HOCプラスノート <b>P.10～11</b> を記入

第3回集合研修	日 時	令和7年2月14日(金) 13時30分～ 16時00分
	会 場	鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室
	ね ら い	3年間の学びを、今後の看護活動にどのように反映するか明確にする。
	研修内容	○講 義 「在宅生活志向の看護の実践に向けて」(Ⅲコースと合同) ○グループ討議 「T-HOCでの学びを今後の在宅生活志向の看護にどのように活かすか」
	講 師	◇岩本 大希 : ウィル訪問看護ステーション 所長
	課 題	HOCプラスノート <b>P.12～13</b> を記入

### \*私の成長～このコースを通して～

自己評価	ね ら い	受講生自身が自己評価する(10点評価)
	課 題	HOCプラスノート <b>P.14～15</b> を記入

第15回T-HOC特別セミナー	日 時	令和7年3月15日(土) 10時30分～12時50分 (予定)
	会 場	鳥取大学医学部 記念講堂
	内 容	テーマ (未定) 講師 (未定)

Iコース(実践)に関するページはQRコードから確認してください。➡

